**在日台湾人作家李琴峰『独り舞』と『獨舞』の比較研究――文化翻訳と自己翻訳からジェンダー・アイデンティティを分析する**

謝惠貞

（要約）

小論では、まず翻訳理論に基づいて、日本語原作『独り舞』の「文化翻訳」を検討し、次に、作者が「自己翻訳」した後の中国語版、『獨舞』との異同を相互に比較する。また、ジェンダー研究とクィア理論に基づいて、２つのテクストにおける文化翻訳と自己翻訳の意味を解釈する。これにより、女性・LGBT・移民という三重のマイノリティの立場にある作家の李琴峰が、レズビアンが直面する「包摂と排除」を通して、ジェンダー・アイデンティティが生み出す連帯感と限界を、作品の中でどのように描いているのか、という考察につながる。また、主人公が「同質性」の追求に幻滅し、その結果、クィア思想の「差異の探求」へと考えを変化させたことが、ナショナリズムを超えたセクシュアルマイノリティのアイデンティティを打破するのにどのように影響したのか。さらには、テクスト中に見られる言語的・文化的ハイブリッド性や、多文化共生の戦略的推進についても明らかにする。